

芸術とメディアテクノロジー・センター

(Zentrum für Kunst und Medientechnologie, ZKM)

Karlsruhe

- I 目的 情報化社会へ対応するため技術と芸術文化の変化についての研究・教育機関
視覚芸術
音楽
言語

II 市及び州政府が計画した理由

- (1) 情報社会におけるエレクトロニクス・メディアが家庭、学校教育、仕事、レジャーなどの日常生活に引き起こしつつある聴覚・視覚的世界への影響が無視できないこと
公共空間における芸術（芸術を用いた公共空間の創造）
- (2) ニューメディアによる市民活動への影響
- a コミュニケーションの増大
 - b 境界領域を超えた協力
 - c 情報と知識への個人アクセス
 - d 集合可能なインタラクティビティの空間
- (3) a 新しいテクノロジーが芸術・文化に如何に有効か
b レジャー時間での市民の新しい要求は何か
c 市民とくに若者へのメディアの影響力
d 新しい職業の創出への研究

Ⅲ センターの果すべき機能

(1) 調査研究による美的なイノベーションの促進

- a 芸術と科学へテクノロジーはどんな手段を用意できるか
- b テクノロジーの芸術・文化への影響
- c 社会の発展と進化へ芸術独自の判断基準を統合できるか
- d 来館者へのニューテクノロジーの理解と操作の教育
- e 個人の創造的なメディアによる育成
- f 世界的情報ソースの提供
- g 科学・芸術・企業・政治との相互協力による訓練コースと熟練者の養成

Ⅳ センターの活動

- (1) 調査・開発
- (2) 教育・助成
- (3) 普及活動

芸術活動のプロセスへの市民の参加は、とくにニューテクノロジーにより可能性が増す

- a ホログラフィー・アート
- b コンピュータ・グラフィックス
- c コンピュータに蓄えられたイメージ・ソースを基に来館者がそれを検索して芸術空間に短い旅を行なうことができる
- d 音響や絵画的イメージによる芸術的コラージュ（サンプリング）
- e 新しい開発メディアによる来館者の積極的なインタラクティビティが増す。そのための新しい芸術上の道具と新しい空間を用意する必要がある

V メディア・ミュージアム

VI メディア・シアター

VII ライブラリー 映像と音響を中心としたソース

VIII グッゲンハイム美術館との世界美術館ネットワーク